

NSPA JAPAN

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・後藤 武
編集・広報委員会



「自然科学の時間・恐竜の魅力」
太古の世界を空想し、想像力を豊かに
国立科学博物館名誉館員 小島郁生

ソウル国際ブックフェア報告
社団法人 出版文化国際交流会 佐藤佳苗

研修会報告
モバイルインターネットデバイスと学びの可能性
他

2010 7/15 NO. 3

<http://www.nspa.or.jp/>

社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 神保町101ビル1階 TEL 03-5577-6301



「自然科学の時間・恐竜の魅力」

太古の世界を空想し、
想像力を豊かに

国立科学博物館名誉館員 小島郁生

長年にわたって、恐竜研究を普及する活動をしてきた著者。忙しい研究生活の合間に絶えず、著書、訳書を出し続けてきたその著書数は監修も入れて約150冊にもものぼる。

私の本当の専門は白亜紀アンモナイト（化石頭足類）の研究である。その傍ら、半世紀にわたり恐竜の普及活動を行ってきた。アンモナイト研究という、いわば象牙の塔である母校の教官から国立科学博物館研究官へ出向してから三〇年経った頃、市民や子供たちと身近に接する経験があり、その時に、化石について正しく推理することを普及させる必要性を感じていた。

科学博物館に移った翌々年の一九六四年、上野に日本で最初の恐竜の骨格が組み立てられた。当時ロサンゼルス在住の故小川勇吉氏の資金提供で得た恐竜の化石を、ユタ大学のアロサウルスの専門家であるマドセン氏が組み立て指導したのであるが、マドセン氏の来日も組み立ても小川氏の資金で可能となったのである。私はマドセン氏のお相手をつとめた。

一九九〇年頃、私はM社から小学校四年の国語の教科書用に「キョウリュウウを探る」という八ページの小文を書くよう依頼された。その時、ほとんど二つ返事でOKしたのだが、それには、前述のような経緯と動機があったからである。この小文の掲載は二〇年間（一九九二～二〇〇二年）続いた。

動機の第二は、イェール大学児童研究センター小児科・精神科シヨワルター教授の調査結果を知っていたからである。保育園の先生が行ったアンケートの結果、恐竜は子供の空想の世界で重要な役割を果たし、多くは頭が良くなり想像力豊かな子供に育つという事実だ。空想は巨人、つまり大人の世界で生き

恐竜マイアサウラ親子骨格と果化石（モンタナ大学ロッキーズ博物館にて撮影）



る術を教える。恐竜の絶滅は古い秩序の変化をもたらし、未来は次代を担う小さな者の手に委ねられることを暗示しているが、こうした空想は子供たちに自信を与えるというのだ。

このことは、私の拙文の反応からも感じた。拙文が国語の教科書に掲載された頃、毎年のように、埼玉県、大阪府、広島県、佐賀県など全国の小学校の子供たちから感想文が送られてきた。それらは、恐竜を好きになっただけでなく「国語が好きになった」とか、「動物」や「植物」を調べて「自分でその説明文を書いてみたくなった」などと、多くの子供たちが書いていた。

こうした彼らの感想文に私は嬉しい思いをさせてもらったこと、夏休み前後に返事が届くように努力したことを、いま懐かしく思い出す。

在職中は数多くの展示会にかかわったが、特に忘れられないのは、恐竜親子の物語「大恐竜展」マイアサウラ(一九九〇年)である。「動く彫刻」や「光と影」を使っているが、面白く恐竜の一生を演出するかが、ポイントであった。

私自身フタバスクリューの発掘に参加(一九六八―一九七〇年)、群馬県中里村(現神流町)連年の崖で恐竜足跡の可能性を論じ(英文、一九八五年)、モンゴル国フルンドツホ白亜紀層恐竜調査(一九九四年)、淡路島産翼竜の中生骨の英文記載(二〇〇七年)、エゾミカサリユウの英文記載(二〇〇八年)、神流町産フクイラプトル歯の英文記載と地層対比(二〇〇九年)を行った。六〇年にわたるこうした研究生活の間、絶えず著書・訳書・監訳書を出し続けてきた。私の研究活動において副業でしかなかった化石爬虫類が、私の人生の中で意外と大きな位置を占めるようになったのは、絶えず出し続けてきた自然科学書のおかげであるといえるのではないかと思っている。

小島郁生(おぼたいくお)

一九二九年福岡県に生まれる。一九五六年九州大学大学院(理学研究科)博士課程中退。国立科学博物館地学研究部長、大阪学院大学国際学部教授を経て、現在 国立科学博物館名誉館員・理学博士。著書/恐竜大百科事典(監訳・朝倉書店)、恐竜イラスト百科事典(監訳・朝倉書店)、骨から見る生物の進化(監訳・河出書房新社)、生物の驚異的な形(監訳・河出書房新社)、白亜紀の自然史(東京大学出版会)ほか多数

ソウル国際ブックフェア報告

社団法人出版文化国際交流会 佐藤佳苗

五月十二日から五日間、今年もソウル国際ブックフェアが開催され、昨年より約一万人増の十二万人ほどが訪れた。二つしかないホールのうちの二つが児童書専門となっていて、児童書が強いという印象、そして来場者への本の割引販売が中心のフェアだ。ただ、日本からは十社が出展し、ほとんどが現地関係者とのミーティングで忙しくしていた。

国際交流基金との共催で年間十数件参加する図書展のひとつとして、本会はソウルでも日本ブースを設け、六百冊ほどの図書を展示、あわせて販売も行ったが、常時来場者が押し寄せ、大変な賑わいを見せていた。韓国での日本図書の人気は非常に高い。他国のようにコミックやポツブカルチャーがもてはやされているのみでなく、普及に苦勞をしている日本の文学、小説がここでは大人気というのが特徴だ。出版ジャーナリストの館野哲氏によると、昨年の両国相互の文学翻訳点数は、韓国語から日本語へが十点のみに対し、日本語から韓国語へは八八六点もあり、かなりの不均衡状態となっているという。書店でも、ベストセラーコーナーに日本人作家の翻訳書がいくつも並んでいるだけ

でなく、大きな書店は品揃え豊富な日本語の本のコーナーを設けていて、しかも買っていくのはほとんど韓国人だということから驚く。日本語のまま読める人がそれだけ存在するということだ。

聞いてみると、必修第二外国語として高校生の三割ほどが日本語を習っているのに加え、中学校や小学校でコースを用意しているところもある。構造が似ている他言語よりは習得しやすいこともあるだろうが、最終的に上級レベルに達する人の割合がともも多いそうだ。しかし義務で学ばされる学校の授業だけでは、とてもここまで広く、そして高レベルの普及はありえない。日本のドラマや歌番組、アニメやコミックで日本ファンとなり、その俳優や歌手、作品が好きだからその背景をもっと知りたい、オリジナルのまま理解したい、という個人的な強い興味

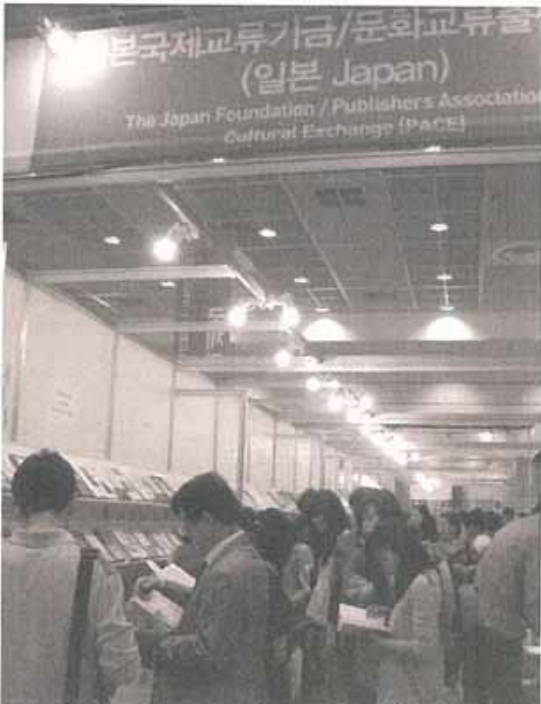
が実は習得の原動力になっているらしい。「日本の小説(翻訳版)がきっかけで日本語を習い始めた」という層もそのうちきつと出てくると期待したいところだ。

今年日本による韓国併合から

ちようど百年となる。会場では特別展示が行われていたし、日本ブースでもその時代の歴史、両国関係をテーマにした本を日韓双方から揃えた。韓国では戦後六十年以上経つ今日でも、日本統治時代に日本に協力した「非難されるべき人々」のリストが調査・編纂・発行され続けているという。会場で販売もされていた。許し難い過去もふまえた上で、現在のこの状態が実現していることを、我々は忘れてはならないだろう。

日本語の通用度、理解する人の多さ、レベルの高さ、日本への全般的な興味がおそらく世界一(台湾以上と聞いた)の韓国。日本の出版界も、世界的に見てもこのようにありがたい国、韓国でさらなるチャンスを探る試みをもっとしていただけたらと思う。

ソウル国際ブックフェア会場 日本展示ブース



「研修会報告」

●モバイルインターネットデバイスと学習の可能性

いま全国の大学では、学生にとってより効果的な教育の実施を目指したICT（情報コミュニケーション技術）の活用が積極的に進められている。eラーニングに代表されるICT活用教育の普及は、伝統的な印刷物の教科書のあり方にも変化をもたらそうとしている。そこで今回は、ICT活用教育の最前線で活用されるスマートフォンに注目し、「モバイルインターネットデバイスと学習の可能性」研修会を五月二十日（木）、日本出版クラブ会館にて開催した。講師には、iPhoneの日本におけるキャリアであるソフトバンクモバイル株式会社から浜野誠様を講師にお招きした。協会員

限定の研修会にもかかわらず、当初の定員を超える八〇名もの参加があり関心の高さがうかがえた。

研修会では、国内外の大学の様々な実例がビデオを交え紹介された。入学者全員にiPhoneが配布される米国のある大学では、GPS機能による出欠確認や教員自身が開発した学内案内コンテンツなどが紹介された。国内の事例としては、青山学院大学社会情報学部のほか、横浜商科大学や大阪大学での実践が紹介された。

青山学院大学社会情報学部と横浜商科大学では、全ての学生・教員にiPhoneが配布され、教材の共有化や授業のインタラクティブ化が図られており、対面授業の活性化やユビキタス環境による予復習の効率化、体感的理解を通じた情報リテラシーの向上などに役立てているという。特にTwitterを用いたインタラクティブ化では、学生からの質問や意見が教室のプロジェクトに刻々と映し出され、教員の授業進行にリアルタイムに反映されてゆく様が印象的であった。また、情報処理系資格の取得を支援する目的で学内に導入されているASP型eラーニングサービス（アイコム社）は、パソコンだけでなくiPhone

のSafariブラウザからもアクセスすることができ、ユビキタス的な学習環境が実現されていることも紹介された。

さらに会場では、札幌医科大学の三谷正信先生が開発されたeラーニング教材「解剖・生理学の基礎」の実演が行われた。インフォテリア社が提供するAppleモバイル端末向けLMS（ラーニング管理システム）であるHandbookを用いて開発されたeラーニング教材で、教科書のようなチャプター構成のなかに各種のオンラインテストと組み合わせられたCG画像教材やビデオ教材が用意されている。また、この教材に対応する対面授業用のペーパー版教材集も紹介されたほか、紙に印刷した「電子透かし」によってiPhoneに任意のWebコンテンツを表示させる技術も紹介され、印刷物の教科書とeラーニング教材とのコラボレーションの可能性に注目が集まった。

本研修会では、対面授業を構成する様々な場面に最適化したモバイル技術の活用を学ぶことができた。ICT活用教育の現場では、対面授業をより効果的に魅力的なものとするために、授業を構成する様々な場面に合わせ最適な教材やツールが投入される。印刷物の教科書もその一つであり、紹介された各大学の事例が教科書の「最適化」を考えるヒントになればと思っている。なお、本研修会

の内容についてより詳細を知りたい方は、東京大学出版会・福島（fukushima@nippon.jp）までお問い合わせいただきたい。

（東京大学出版会 福島正志）

朝倉元理事長の叙勲を祝う

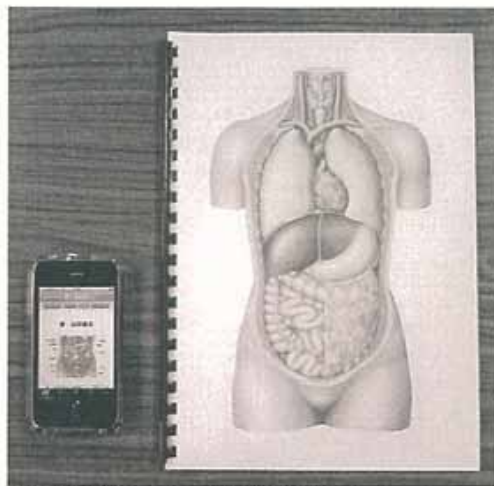
自然科学書協会顧問（元理事長）志村幸雄

自然科学書協会元理事長の朝倉邦造さんがこのたび旭日中綬章を受章された。勲章に無縁な者にとってその有難味は知る由もないが、出版人としての最高の榮譽と思われる叙勲に浴されたことは、仲間の一員としてこの上なく喜ばしく、心よりお祝い申し上げる次第である。

今回の受章は、新聞発表を見る限り「元日本書籍出版協会理事長」としての功績が認められてのことだが、私どもにとっての朝倉さんはやはり「自然科学書の朝倉さん」である。理事会や総会を開けば朝倉さんの顔があり、それで何となく走り続けてきたように思われる。

何しろ、理事になられたのが社長就任の直前、昭和五三（一九七八）年で、今なお続投中だから三十余年を数える。その間に四期八年余にわたって理事長を務め、折から浮上した複写権問題や再販問題に対応されたことを考えると、その労や多とすべきであろう。

こんな書き方をすると、自然科学書と



札幌医科大学の三谷正信先生が開発されたeラーニング教材「解剖・生理学の基礎」(札幌医科大学・三谷正信先生ご提供)

○名。

いう「地方区」だけに埋没していたかのように見えるが、一方では書協という「全国区」で二期四年にわたって理事長職をこなされたのだから、そこが器量の違いなのか。私も及ばずながらお手伝いをしたので知っているが、当時は再販制度弾力運用問題（特に値引き・ポイントカード問題）や定価総額表示問題など、いわゆる出版四団体マターが山積し、互いに声を大にして激論を交わすこともしばしばだった。しかし、朝倉さんの得意技というべきか、議論が終わってみれば、いつも妥当な決着点に落ち着いていた。

朝倉さんといえば、だいぶ以前のことになるが、月刊「文藝春秋」の「同級生交歓」欄に東京高師小学校時代の仲間と登場、「寡黙の人」と評されていた。幼少時からの「竹馬の友」の評定に間違いはなからうが、われわれの仲間としての朝倉さんはむしろユーモアや洒脱に溢れ、座談の人である。最近なぜかくも変身したのか、と問うと、「皆さんのお陰で能弁になりました」と答えが返ってきた。

■第五九期第二回定時（予算）総会が開かれる

五月二〇日一五時三〇分から日本出版クラブ会館で開かれ、複写使用料預り金本会計繰入の件、第六〇期の事業計画案ならびに予算案が承認された。当日は会員社七二社から代表者三六名が参加した。（委任状三

■第五九・六〇期理事会・委員会開催一覧（二〇一〇年四月～六月）

- 理事会
 - ・四月二五日（木）／一五～一七時 日本出版クラブ会館
 - ・五月二〇日（木）／一四時～一五時三〇分 日本出版クラブ会館
 - ・六月二七日（木）／一五～一七時 日本出版クラブ会館
- 常務理事会
 - ・四月二二日（月）／二七～二九時 しんえつ
- 専門委員会・特別委員会
 - ・四月八日（木）総務委員会ホームページ・ワーキンググループ例会／一三時三〇分～一五時三〇分 自然科学書協会事務所
 - ・四月二二日（水）デジタル化対応検討委員会／一五時三〇分～一七時三〇分 自然科学書協会事務所
 - ・四月二七日（火）広報委員会／一五時～一七時 文化産業信用組合
 - ・四月二八日（水）販売・出展委員会東京国際ブックフェア幹事会／一六時～一七時三〇分 文化産業信用組合
 - ・五月二四日（金）総務委員会ホームページ・ワーキンググループ例会／一三時三〇分～一五時三〇分 自然科学書協会事務所
 - ・五月二〇日（木）研修委員会講演会／一六時～一八時 日本出版クラブ会館
 - ・五月二五日（火）販売・出展委員会東京国際ブックフェア運営委員会／一六時～一七時

- 三〇分 自然科学書協会事務所
- ・六月二日（金）総務委員会ホームページ・ワーキンググループ例会／一三時三〇分～一五時三〇分 自然科学書協会事務所
- ・六月二五日（火）デジタル化対応検討委員会／一四時～一六時 自然科学書協会事務所
- ・六月二六日（水）広報委員会／一五時～一七時 文化産業信用組合
- ・六月二三日（水）販売・出展委員会東京国際ブックフェア幹事会／一五時～一六時 文化産業信用組合
- ・六月二三日（水）販売・出展委員会／一六時～一七時三〇分 文化産業信用組合

■その他

◆五月二二日（水）全出版人大会がホテルニューオータニで開催された。

【事務局たより】

〈当会代表者の変更〉

●株式会社日刊工業新聞社

旧代表者…渡部明浩

新代表者…黒岡博明

●東海大学出版会

旧代表者…大塚 保

新代表者…安達建夫

〈住所変更〉

●文永堂出版株式会社

旧住所 東京都文京区本郷二・二七・三

新住所 東京都文京区本郷二・二七・一八

※電話番号・ファックス番号の変更はありません。

第五九期／第六〇期広報委員

〈担当常務理事〉 新谷滋記（工業調査会）

〈委員長〉 竹生修己（オーム社）

〈副委員長〉 長 滋彦（技報堂出版）

田中久米四郎（電気書院）

瀧原恒平（朝倉書店）

高杉 昇（家の光協会）

竹西素子（オーム社）

大井隆之（コロナ社）

遠矢良太郎（南江堂）

編集後記

昨年九月から新しく広報委員となりました。これまでの内容を継承しつつ、より協会加盟各社の皆様に読んでいただけるよういろいろ工夫していきたく思っております。よろしくお願いたします。

初仕事として、前号の「自然科学の時間—次世代スーパーコンピュータプロジェクト」を担当いたしました。読んでいただけましたか。自然科学書に携わる方には是非読んでほしいと思ひ、お忙しいなかを金田先生にお願いし執筆いただきました。読まれていない方は是非読んでください。また、同号には、社団法人日本書籍出版協会の樋口清一事務局長に「ゲージル問題の先にあるもの」と題したわかりやすい記事を寄稿いただきました。こちらも是非一読を！。このように出版業界で問題となっていることをわかりやすく伝える企画も掲載していきたいと思っております。もし、皆様からご希望がありましたら是非ご提案してください。

（T・O）